

教材・支援機器活用実践事例フォーマット

| | | |
|------------|-------------------|---|
| 実践年度・タイトル | | 平成29年度 |
| | | 児童の意思の表明をサポートする絵カードやICTツールの活用 |
| 授業について | 教科名等 | <input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input checked="" type="checkbox"/> その他(日常生活) |
| | 単元・題材名 | 日常生活場面の中で使用 |
| | 授業の目標 | 絵カードやICTツールを用いた意思の表明方法を習得し、適切なコミュニケーションをとることができるようになる。 |
| | 観点別学習状況の評価の観点 | <input type="checkbox"/> 「知識・理解」 <input type="checkbox"/> 「技能」 <input checked="" type="checkbox"/> 「思考・判断・表現」 <input checked="" type="checkbox"/> 「関心・意欲・態度」 <input type="checkbox"/> その他() |
| 学習集団と児童の実態 | 学校・学部・学年・人数 | <input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない 小学部4年 1名 |
| | 対象の障害 | <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input checked="" type="checkbox"/> その他(ダウン症) |
| | 児童の課題(特性・ニーズ) | <input type="checkbox"/> 見る <input type="checkbox"/> 聞く <input checked="" type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 計算する <input type="checkbox"/> 推論する <input type="checkbox"/> 運動と姿勢 <input type="checkbox"/> 日常生活活動 <input type="checkbox"/> 不注意 <input type="checkbox"/> 多動性-衝動性 <input checked="" type="checkbox"/> 社会性・コミュニケーション <input type="checkbox"/> 覚える・理解する <input type="checkbox"/> その他 発語はなく、返事や要求の際には「おー」「あー」の発声や、いくつかのサイン、近くの大人を引っ張ったりその物を渡しにいたりすることで伝えていた。 他者への関わりの面では、通りすがりに教員や友達に手を出したり押したりする、集団場面において他児を蹴ろうとするなど、不適切な関わりが見られた。 |
| ICT活用について | 使用した支援機器・教材の名称と画像 | <input type="checkbox"/> 音声ペン(Gridmark Inc.) <input type="checkbox"/> iPod touch(Apple Inc.) <input type="checkbox"/> DropTalk(HMDT Co., Ltd.)  |
| | 活用のねらい | Aコミュニケーション支援(<input checked="" type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) ①絵カードやICTツールを用いて発表したり、コミュニケーションをとったりする。 ②ICTツールを用いて、依頼をする対象の教員名と要求を組み合わせて伝える。  |
| 授業に授業展開支援 | 授業展開と画像 | ①シンボルカードによる要求ツール 日常的に使用機会のある「トイレ」「お茶」「勉強」「音声ペン」の要求カードを作成。各カードのマッチングの練習を導入前に実施した。リールキーホルダーでズボンのポケットに付け、左手で引っ張って右手で指さして伝えるようにした。 最初は教員と一緒に指す、手を出して待つ、「なに？」と尋ねるプロンプトを行った。 ②音声ペンによる呼びかけツール 友達や教員を呼んだ後に、一言コメント(要求)を選ぶことができるようにした。コメントには「手伝って」等の他、「こっちを見て」「呼んだだけ」等、本人が相手の反応を期待しながら、大事な用のない時にでもいつでも使えるよう、多様な選択肢を取り入れた。朝のべんきょうが終わった後の休み時間および、帰りの支度後の休み時間に使用した。 ③ iPod touchによるやりとりツール iPod touch および、アプリ「DropTalk(HMDT Co., Ltd.)」※を使用し、シンボルとそれに対応する音声によるツールを設定し、肩掛けポーチに入れ、常に携帯するようになった。(※話し言葉でのコミュニケーションを苦手とする人のコミュニケーションを助けるAAC(補助代替コミュニケーション)ソフトウェア。) |
| 効果・評価 | 児童の様子や変容および授業の評価 | 友達や教員に対する呼名や要求を、自分からするようになり、関わりの頻度が増えた。また、呼名し相手を指定した後に「お茶ください」「手伝ってください」などの要求をしたり、「いいね」「できました」などの報告をしたりする姿が見られるようになった。 他児を押すなどの不適切な関わりがなくなり、ことばで関わることで、学級の友達も「なに？」と応答し、近くに行き話をするようになり、友達とのやりとりを笑顔で楽しむ様子が見られた。 |